

おいでん・さんそんSHOW

2月号
2020.02.01発行



特集 | 人と人をつなぐ魅力的な場をつくるための『場づくりの学校』
ローカルエリアに新しい場・空間・働き方を
生み出すことを考える2日間

稲武
いなぶ

豊田市稲武地区を舞台に、地域で人と人をつなぐ、魅力的な場を生み出すことを目指すためのイベント『ローカル場づくりの学校』が1月11日(土)、12日(日)に開催されました。テーマは、「つくるローカルエリアにあたりし場・空間・働き方。あたらしい人と人とのつながりを生み出すコミュニティプラットフォームがこれからのローカルエリアの未来を変える」でした。

新たな担い手への期待で開催

稲武地区は豊田市の北東端に位置し、長野県や岐阜県に隣接する自然豊かな場所です。全国の中山間地域同様、高齢化と人口減少が進む中で、昔ながらの古民家などの遊休不動産が数多く残され、新たな担い手による有効活用を待っています。そんな状況の中、「将来的に、稲武で何か始まるきっかけになってほしい」という思いから「場づくりの学校」は始まりました。

豊田市と稲武地区雇用創出検討委員会の発案し、多様な雇用先の創出とともに、実際に企画を立て運営していくプレイヤーの方々をつなげるという目



向かって左から、コーディネーターの鈴木哲也(すずきてつや)氏、坂本大祐(さかもとだいすけ)氏、森川正信(もりかわまさのぶ)氏

的が立てられました。プログラムのコーディネーターは、坂本大祐氏(さかもとだいすけ)と、ワーキングOFFICE CAMP(もりかわまさのぶ)の東吉野、森川正信氏(もりかわまさのぶ)と、フューチャーセンター、鈴木哲也氏(すずきてつや)と、茨城県結城市ワーキング・シエラスペースYouinowaの3名。皆さん、一般社団法人ローカルワーク・アソシエーションの理事を担っています。ゲスト講師として中津川市、桑名市、新城市など豊田市を含む周辺地域で、「ワーキングスペース」や「ゲストハウス」など、場を活かしたコミュニティ空間を生み出している実践者7組が招かれました。

これから新しいチャレンジや働き方を始めてみたい方々が地元稲武地区はもとより、東京都や岡山県といった遠方からも計29名の参加し、2日間を共に過ごしました。

センター長のミライのフツに
向かって！

vol.63
2020年代

センター長
鈴木辰吉

2020年代が始まった。社会にとっておいでんさんそんセンターにとって、そして自分の人生にとって2020年代の10年とはどのような時代になるのだろうか。

か。年明けから多くのメディアが、このようなテーマの特集を組んでいた。2015年に国連で採択されたSDGs(誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂

性のある社会の実現に向けて国際社会が2030年までに達成すべき17項目の目標を定めたものの目標年までの10年間、人々がその達成に向けて必要な行動をとることで、次世代に、豊かな地球、明るい人類の未来を渡すことができるという。一方、気候変動による異常気象の頻発や格差の拡大、止まぬ国際紛争など現実との乖離が指摘され、このままでは達成が困難だとも報じていた。

昨年11月27日に、「社」おいでんさんそんは、豊田市のSDGsパートナーに登録された。2018年に、内閣府より「SDGs未来都市」として選定された豊田市は、都市部のエコフレタウン、山村部のおいでんさんそんセンターを2大プラットフォームとして、SDGsを推進するとしておりパートナー登録は当然のことと言える。これを機に、センターホームページを一新

イベント情報

第10期 豊森なりわい塾 塾生募集

山村をフィールドに、実際に「あるく・みる・きく」ことを通して学び、いっしょにこれからの生き方、働き方、社会のカタチを考えませんか？

- 期間 | 2020年5月～2021年2月(原則土日年8回)
- 基本スケジュール | *下記のプログラムを予定しておりますが変更する場合があります。
第1回講座【5/23・24】入塾式/地域をあるく・みる・きく
第2回講座【6/20・21】地域を知り、地域に学ぶ「森林」
第3回講座【7/18・19】地域を知り、地域に学ぶ「食と農」
第4回講座【9/19・20】お年寄りの話に耳を傾ける「聞き書き実習」
第5回講座【10/10・11】地域コミュニティ/まつり
第6回講座【11/14・15】暮らし・つとめ・かせぎ/自分を見つめる
第7回講座【12/19・20】これからの幸福論/修了レポート作成
第8回講座【2/13・14】修了レポート発表会/修了式

- 場所 | 愛知県豊田市内
- 定員 | 20名程度
- 受講料 | 3万円(前回分) ※交通費は別途自己負担
- 応募期間 | 3月12日(木)～4月12日(日)
- 応募条件 | *18歳以上の方*1年間のカリキュラムに積極的に参加できる方*当プロジェクトの主旨に賛同し、積極的・自発的に活動を広げられる方
- 応募方法 | WEB応募フォーム⇒<http://www.toyomori.org/>

①～⑧の項目をWEB応募フォーム、又は郵便番号でお送りください。
①氏名(ふりがな) ②性別 ③所属及び略歴 ④生年月日 ⑤連絡先(郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス) ⑥応募動機(A4用紙1枚以内、顔写真付き) ⑦この募集を知ったきっかけ ⑧面接希望日(次のうち、面接可能な日時をできるだけ多く挙げてください) 4/18(土)、19日(日)、20日(月)、21日(火) *面接の時間はお一人20分程度を予定しています。
*面接の日時詳細は、メール又はお電話でご連絡させていただきます。

- 選考方法 | 1次審査:書類審査 2次審査:面接
- 募集説明会 | 2020年4月5日(日) 13時30分～/場所:豊田市中央図書館(参合館)6階多目的ホール/プログラム(予定) *塾長澁澤寿一が語る「豊森がめざすもの」*センター長が語る「豊森とおいでん・さんそん」*卒業生数名による豊森体験トークセッションなど、講座や塾生の様子を紹介、第10期募集の概要説明、質疑応答など。参加申込フォームからお申込みください。<http://www.toyomori.org/>
*募集説明会の参加申込受付期間は、2月6日(木)から4月3日(金) 17:00まで



その他の情報は、センターホームページをチェック!



「中山間地域の農を考えるサミット」開催

農家、団体、個人など中山間地域の農に関わる20名余が参集



会場は、新盛自治区にあるすげの里

1月21日(火)、おいでん・さんそんセンター食と農の専門部会が主催した「中山間地域の農を考えるサミット」が、足助地区新盛町の「すげの里」で開催されました。自然栽培や有機農業に取り組む農家、集落営農や産直市場に取り組む団体、食の自給に取り組む人など中山間地域の農に関わる人々20名余が参集しました。

冒頭、主催者のリクエストに応じて、新規就農の支援策、施設・機械の導入補助、獣害対策の支援策などについて、市農政課から丁寧なレクチャーを受けました。個別農家が直接聞くことが少ない制度説明とあって、制度の運用に関する質問が相次ぎました。

販路の確保や流通についての情報交換では、スーパーやまのぶの仕入れ担当者から、環境意識や健康志向の高まりから、地元の新鮮な野菜などを求める消費者、地産地消の支持者が増えていること

など、勇気づけられるレポートもありました。また、特定顧客への戸別配達スタイルの有機農家が多く、農家ごとにホームページを管理するのは大変なので、共同のサイトを運営し、消費者が情報を得やすい環境を作れないかなどのアイデアも出されました。これはぜひ実現させたいと思います。

そして、参加者がそれぞれ持ち寄った、普段はレストランなどに供給されるこだわりのお米や食材で作った「野菜鍋」やサラダは、これ以上ない贅沢なお昼ごはんとなりました。すげの里ならではの趣向でした。(鈴木辰吉)



参加者が持ち寄り、野菜鍋でランチ



映画『いただきます ここは、発酵の楽園』試写会

発酵の視点から改めて農と身体に向き合うドキュメンタリー



2018年に吉田俊道さんが下山区で講演された際の様子

1月15日(水)、NAGOYA試写室で行われた『いただきます ここは、発酵の楽園』(監督・撮影:オオタヴィン氏)プレス試写会&監督挨拶にお招きいただきました。オオタ氏の初監督作品で4万人を超えるヒットドキュメンタリー映画となった『いただきます』の続編です。

発酵の魔法で、土も食べ物も私たちが幸せになっていく。当センターでも食と農専門部会で以前ご講演いただいた「菌ちゃん農法」の吉田俊道氏、「奇跡のリンゴ」で知られる木村秋則氏、「和法薬膳研究所」の菊池良一氏の取組から、本当の腸活とは?農には肥料や農業は本当に必要?イノシシやカラスや虫がこない畑とは?ということ、実例をもとに映画のなかで紹介しています。

美しい里山で、苗を植え稲刈りを行うみいず保育園。微生物を活かした農法で園児が野菜を作り、給食を食べるマミー保育園。オーガニック米を全市の学校給食に取り入れた千葉県いすみ市。

泥んこまみれでキラキラの笑顔の子どもたちを見るにつけ、「食べたもので身体はできている」ことを自覚せざるにいられません。

食を選ぶことは、生き方を選ぶこと。吉田氏に師事し、山梨の里山へ移住、まっとうな食で子育てをする家族の姿も描かれます。

「国連がSDGsを言うずっと前から、日本の発酵食文化は持続可能で、菌や地球と共生してきた」と語るオオタヴィン監督の挨拶が印象に残りました。「私たちにいまできることは?」「次の世代に残すべき食とは?」ととても大切なことを考えさせてくれる映画です。

公式HPは⇒<https://www.itadakimasu2.jp/#top>

2月8日(土)より名演小劇場にてロードショー。チケット1,800円/前売り1,300円で、前売り券はおいでん・さんそんセンターでも購入することができます(先着30名)。ご希望の方はスタッフにお声かけください。(松本真実)



フィールドワークで町あるきの途中に立ち寄った、昔からある元家具屋のお店にて、稲武名物のからすみをいただきました。



フィールドワークの不動産。通りに面して調理スペースがあります。



1日目フィールドワーク後のグループワークでの案出し



参加者全員での集合写真



場の魅力から アイデアを膨らませる
一日目は、場づくりに必要な視点のレクチャーを受けた後、フィールドワークで地元のお店街周辺の不動産を巡りながら町の方と話をしました。その後、「ここでお祭りの時に五平餅を出したい」、「ここは昔電気屋さんだったから土間が広いね」といったそれぞれの物件や周辺環境がもつ魅力の発見を元に、グループワークで各場づくりのアイデア出しを行いました。

「あのスペースで集まってお茶したい」、「じゃあオムツ替えもできるといいね」、「子どもがそこで一緒に絵を描いて、できたものをギャラリーみたいにして」といったように、アイデアがグループで練られることにより、ひとつの場所から色々な可能性が広がります。アイデアをどんどん膨らませてイチオシの提案が決まるころには、メンバーどうし、チームとしての繋がりも生まれていました。夜はカフェヒトトキで、懇親会があり、その後、温泉旅館岡田屋に宿泊しました。「学校のように仲良くなれる場」であったとの声が聞こえてきました。

場づくりへの想いを言語化する
一日目は、実際にコーワキングスペースやゲストハウスを運営するゲスト講師のお話を聞きました。なぜその空間ができたのか、どういう思いがどう活動に繋がってきたのか、正解のない試行錯誤などが語られました。その後、参加者は自分が作りたい場について、目的、目標、想いを、コーディネーターやゲスト講師に相談しながら言語化し、それぞれの企画のプレゼンを行いました。

全国の地域づくりに貢献する場づくりの学校
最後に、コーディネーターの坂本大祐さんから、「場づくりの学校は、大人になって、学校のように仲良くなる場、ローカルのことを考えるのは、あり、会場であるカフェヒトトキの提供者でもある松島周平さんは、「このイベントによって様々な実践者の方と知り合えた。稲武を通過点から目的の場所にしたい。今の子どもたちが、稲武に帰る選択肢があるといい。活動している人たちが支え合い、みんなで夢が語れたら」と語りました。

暗い道を歩いていくようなもの。仲間がたくさんいるということをお話がありました。
全国の中山間地域では、今後、ますます新しい担い手やアイデアを求める動きが増えるといわれています。
稲武地区でプレイヤーどうしのつながりが育まれる機会となった「場づくりの学校」は、豊田市のみならず、全国のプレイヤーを応援し地域の魅力ある場づくりに貢献する取り組みだと感じます。
また今回、参加者が稲武地区を回り、遊休不動産の魅力や新たな働き方を斬新な視点で発見したことが今後、地元住民によるリノベーションなどの動きにつながりそう、目が離せません。(田中敦子)